

Living the Lotus

12
2022

VOL. 207

Buddhism in Everyday Life

開祖随感

法と一体になる

仏さまはいつも私たちのすぐ近くにおられて法を説き続けてくださっているのですが、その仏さまの教えを本当に求める気持ちにならないと、そのお姿は見え、お言葉も聞こえてきません。ですから私たちの行の出発点^{きょう}は、まず法華経をしっかりと読誦することなのです。それも、ただ経典の字づらをたどるだけでなく、そのひと言ひと言を「仏さまが私に語りかけてくださっているお言葉」と心に刻みつける真剣^{まけん}さで読まなくてはなりません。

そうした読み方で経典^{どくじょう}を読誦すると、仏さまがどれほど自分のことを思っていてくださるか、身にしみてきます。法華経を行じる大切さ、その功德を手を取るようにこと細かに教えてくださる仏さまのお慈悲がひしひしと身に伝わってきて、じっとしてられない思いになるのです。

そうして仏さまのお言葉のとおり毎日の仕事の中で一つでも実行しよう、人さまに対するときには教えの心になってみようと努力していくと、いつのまにか自分が生まれ変わっているのです。だんだんに法と一体になってきて光り輝く身になっているのです。

『開祖随感』11, P. 144-145)

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によって創立された、法華三部経を所依の経典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus
2022年12月号 (Vol.207)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1

普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124

Fax: 03-5341-1224

E-mail: living.the.lotus.rk-international
@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 赤川恵一

編集チーフ: シグシドホルル・ゲレルトヤー

校閲者: 小坂和正、菊池克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。



人さまと、ともに幸せに —六波羅蜜

立正佼成会会長 庭野日鏡

煩惱即菩提(ぼんのうそくぼだい)

私たちには、必要以上に欲をつのらせて貪る心や、自分勝手な思いで他を怒ったり憎んだりする心、そして、永遠に変化しないものは何一つなく、みんな縁によって成り立っているという、ものごとすべてにあてはまる道理を忘れて、自己中心の欲や怒りに根ざした考えを正しいと思いこむ心などの、いわゆる「煩惱」があります。これらは、いずれも自分自身の苦悩の種といえるものです。

一方、世俗の暮らしをするなかで、この煩惱を具えているままに、だれもが苦しみや悩みから解放されると教えるのが、法華経をはじめとする大乘仏教です。むしろ、煩惱があればこそ人格の向上をめざし、生きること死ぬことに迷えばこそ真理を求め、その結果、煩惱具足の私たちが、苦しまないばかりか、いっそ煩惱をよりよく生かす智慧に転じることができるという、ほんとうの意味でみんなが救われる教えに出会えたのです。

今年一年、みなさんとともに学んできた六波羅蜜の教えもその一つです。ふり返ってみると、六つの徳目はどれも、欲や怒りや執着心などの煩惱と表裏一体の実践で、そこには自己中心の心を菩薩のはたらきへと転ずるキーワードがつねに見え隠れしていたと思います。いま生かされているこの身、この心を、怒りや執着にではなく、菩薩の実践へとふり向けるスイッチ——それは、「利他」の心です。

そして、私たちは日ごろから、この「利他」の思いや願いを口にしていきます。みなさんは、お気づきでしょうか。

「衆生と共に」を胸に

私たちは、読経供養の際に「願わくは此の功德を以て 普く一切に及ぼし 我等と衆生と 皆共に仏道を成ぜん」と唱えます。また、仏・法・僧の三宝への帰依とともに「当に願わくは衆生と共に」と朝夕に誓います。こうして、いつも「みんなと一緒に幸せになろう」と願い、誓いつつ、仏さまに手を合わせているのではありませんか。

浄土真宗の金子大栄師は、この「衆生と共に」の言葉をとりあげて「いかなる自利の行も衆生と共にであり、したがってまたいかなる利他の行も、自身の道とするもの、それこそ菩薩行というもの」と述べています。さらに「衆生と共に」という願いがあれば、見聞きするものごとはすべて正法を教えるものとなり、気づいたことはどれも道を求める心を後押しする力になるといって、「衆生と共に」生きる菩薩の人生は「そのままに道場である」と結ぶのです。六波羅蜜の実践の醍醐味は、まさにここにあるのでしょう。

さて、ではあなたが「衆生と共に」と願うとき、いま隣にいる人に対して何ができるでしょうか。テレビの画面やインターネット動画で遠い国の惨状に接したとき、「衆生と共に」と願うあなたの心はどのように動くでしょうか。

一人の力ではどうしようもない現実があるとしても、私たち一人ひとりがどう生きるかを模索し、身近でできることにとりくむひたむきな思いが、仏の大きなはたらきと一つになることを私は信じています。仮に、人に何もしてあげられない状態、たとえば病気のとときでも、「衆生と共に」と願うことはできます。その願いは、同じように患っている人が早く回復しますようにという祈りとなり、元気になってまた人さまを励ませるようにと前を向く力となって自身の憂いをも払い、病気知らずの人にはわからない病の受けとめ方とともに、大きな安らぎをもたらすはずです。

百八つ。煩惱の数だけ撞くとされる鐘の音を聴きながら、今年がたとえ多難な一年だったとしても、お互いさま「うつくしや年暮きりし夜の空」(一茶／大晦日の夜空の、なんと美しいことよ)と、明るく元気に新年を迎えたいものです。

(『佼成』2022年12月号)

Spiritual Journey

仏さまに明るく微笑んでいただくために

立正佼成会 韓国教会
徐相旭

この体験説法は、2022年5月8日に韓国教会で行なわれた「降誕会式典」で発表されたものです。

皆さま、よろしく願いいたします。

私たち衆生にはみな仏性が具わり、仏になることができるという説かれたお釈迦さまの降誕をお祝いする佳き日に、説法のお役をいただき大変うれしく思います。

私は龍山支部の徐相旭(ソ・サンウク)と申します。私の母は、東京の品川教会で活動していた大叔母の導きで、1980年10月15日、韓国で立正佼成会に入会しました。私も会員になりましたが、その後教会に顔を出すことはほとんどなくなり、昨年11月、母の四十九日の法要をきっかけに、28年ぶりに再び教会に通い始めました。

私が幼かった頃、両親には喧嘩が絶えませんでした。父は仕事もせずに毎日お酒を飲み、妻と子どもたちに暴言を吐き暴力を振るっていました。私はそんな父が大嫌いでした。大きくなるにつれて、父に対する憎しみはますます募っていきました。

小学校4年生の時、私は腎臓炎の治療のため、ときどき学校を休んで家から離れた場所にあった病院に通っていました。その頃の「学校は休んでもいいんだ」という安易な気持ちが、中学・高校に進んだあとも残っていたのか、私は勉強もせず、毎日、学校の裏山で友達と酒を飲み、たばこを吸っていました。

そんな私の姿は、母にとって大きな悲しみでした。教えに出会えば息子は変わると期待した母は、何とかして私を教会に行かせようとしていました。教会に行くと小遣いをもらったので、私はたばこ代を稼ぐために教会に行っていました。

母の導きの子で、現在はアメリカのサンアントニオ支

部で一生懸命に信仰活動をされている張順粉(ジャン・スンブン)さんも、当時、一緒に教会に通っていました。

父との争いが激しくなると、信仰を求める母の気持ちはますます強くなっていきました。母の読経の声がうるさいという理由で、父と母がぶつかることがさらに増えました。しかし母は、父の反対にも屈せず教会に通い続けました。やがて時が経つにつれ、母が佼成会の信仰をすることに対して、父は何も言わなくなりました。その後、道場が現在の漢南洞に移転する頃まで、私は母と一



教会の正面玄関の看板を磨く徐さん

緒に教会で健幸行(当時は、お当番修行)をしたり、他の信者さんの追善供養に参加したりしました。

漢南洞に新しい道場が建てられた頃、23歳になった私と父との関係は最悪の状態、衝突はピークに達していました。それを見ていられなかった母は、当時拠点長だった李福順顧問さんをお願いをして、私はしばらく教会道場に泊まらせていただくことになりました。私の記憶の中の李顧問さんはとても料理が上手で優しい方でした。

1995年、31歳の時、私は病院の薬品管理の仕事に就き、その頃からしたいに教会から足が遠のいていきました。翌年の1996年に父が亡くなり、その年、私は塾講師に転職しました。その頃からは教会に顔を出すこともなくなり、約20年ただ一生懸命に働きました。50歳になった頃、もう十分働いてきたのでのんびりしたいと思った私は、塾講師を退職しました。

退職後は家の中でお酒を飲みながら映画を見て過ごしました。人の顔色を気にせず、自由でやりたい放題の日々は、まさに天国でした。しかし、日が経つに連れてお酒の瓶が、一本が二本に、二本が三本にと、だだいに増えていきました。

私の体を心配した友達は「このままだと死んでしまうぞ」とお酒をやめさせようとしたのですが、そのときすでにアルコール依存症になっていた私の耳には、友達の忠告は入ってきませんでした。友達は私の母に、治療のために私を病院に入院させることを勧めましたが、息子を老人ホームに行かせると勘違いした母は、絶対にダメだと言って聞かなかったそうです。

ある日、いつものように酒に酔って眠り、目が覚めると病院のベッドにいました。4日ぶりに意識を取り戻した

そうです。担当医は「目が覚めたとしても後遺症が残り、目が覚めなければこのまま遷延性意識障害(植物状態)になる」と診断したそうです。「ウェルニッケ脳症」という病名でした。食事をろくにせずにお酒だけを飲んでいたため、栄養状態が極度に悪化して体の感覚が麻痺してしまったのです。まさに、死臭のする30kgの焚き木といった表現がぴったりの私でした。

介護なしでは何もできず、特に屈辱に感じたのは排泄のような生理現象を自分自身で認識できなかったことでした。このときの経験は、その後お酒とたばこをやめるきっかけになりました。6か月ほどリハビリを受けた私は、担当医の引き留めにもかかわらず退院をしてしまいました。そのため、家に帰った当初は、寝たまま母に体を転がしてもらってトイレに行くような状態でした。やがて壁に手をつけて立ち上がり、機械に頼って歩く練習もできるようになりました。それまで、母がすべての介護をしてくれたことを私は決して忘れません。

退院から1年後、頭から足先まで皮膚が剥がれるという症状を経験しました。非常にまれな病気とのことでしたが、幸い治療が成功し、大きな後遺症は残りませんでした。

体調がだいぶ回復してきた頃、今度は母の様子がおかしくなりました。「頭痛がする」「耳鳴りがする」と言って吐いたり、逆に暴食をしたり、意味のわからないことを言ったりするのです。診断の結果は認知症でした。

普段から母は「介護施設には絶対に入りたくない」と言っていたので、自宅で介護しようと決めました。はじめは、認知症がそれほど恐ろしい病気だとは思いませんでした。しかし、母の病状は段階的に着実に悪化し、ついには自分で排泄ができない状態になりました。しか

し以前自分の介護をしてくれた母のことを思うと、母の排泄物の処理を少しも汚いとは思いませんでした。もし、母に介護してもらった経験がなかったら、母を介護施設に入れていたかもしれません。親孝行と言うのも恥ずかしいですが、生まれて初めて、母のための時間を一緒に過ごすことができました。

昨年夏、コロナ禍の中、母の食事量がどんどん減って心配をしていたある日の午後、母が部屋で気を失って倒れているを見つけました。その日から何度も同じことが起きたため、やむなく母を介護施設に預けました。それから8日後、母は肺炎で亡くなりました。亡くなる直前まで、母は「ありがとう、ありがとう」と繰り返し言っていました。以前から「ありがとう」が口癖になっていた母でした。アメリカに住んでいる私の妹には、前もって母の病状について連絡をしていたので、亡くなる数日前に帰国して母の看病ができたことが、妹にとっては何よりの親孝行でした。

私は、母が亡くなったら火葬して、近くの山に散骨しようと考えていました。しかし、そのことを妹に相談してはいませんでした。実は私たち兄妹は、赤の他人のように40数年を過ごしてきました。高校生の時に妹を殴ってしまい、以来、兄として相手にしてもらえなかったのです。

母の葬式の後、妹と一緒に家の片付けやご宝前の掃除をしました。母は一人息子である私のことで悩み、佼成会に入会しました。毎朝欠かさずご宝前の間でご供養をしていた母でしたが、認知症が進行してから数年間で、ご宝前にはカビが生えるほど厚くほこりが積もっていました。

ほこりを払い落していると、突然、目の前に幼い頃の妹の姿が浮かんできました。「お兄ちゃんはお酒を飲ん

で暴れていれば、家の中のいやなことを忘れられるかもしれないけど、私はどうしたらいいの！」と泣き叫んでいた妹。そんな妹の姿を思い出して、掃除中、思わず涙がこぼれました。そんな私に妹は「もうお兄ちゃんと私、二人きりでしょう。お兄ちゃんがお酒をやめて人生をやり直そうと努力していることを、お兄ちゃんの友達に聞いたよ。私、お兄ちゃんを許すことにした」と言ってくれたのです。40年以上が経ってしまいましたが、私たち兄妹は仲直りをすることができました。

私は妹と相談して、家から10分ほどの距離にある納骨堂に、母のお骨を納めることにしました。母が読誦していた法華三部経はアメリカに戻る妹にあげました。

昨年11月7日、母の四十九日の法要が終わりました。その日、教会のご命日の式典に参加してみたいと思った私は、久しぶりに教会を訪れました。その日の式典での李幸子教会長さんのご講話は、それまでの私の人生についてお話しをされているようで、とても驚きました。特に「子どもは親を選んで生まれてきた」という言葉に、私は大きな衝撃を受けました。

あれだけ憎んでいた父を自分で選んで生まれてきたとは、その時は到底理解できませんでした。しかし、振り返ってみると、父と私には似たところがたくさんあることに気づきました。お酒に関して言えば、父が365日中366日お酒を飲んだとすれば、私は365日中367日飲んでいました。父は亡くなる直前、痩せこけて焚き木のような体になりました。私はそんな父の体を持ち上げ、病院に連れて行きましたが、それから1か月半後、父は亡くなりました。私も父と同じように30kgの焚き木のような硬い体になりましたが、友達がひょいと持ち上げて病院に入院させてくれたお陰さまで助かりました。友達がいなかった

Spiritual Journey

ら、そして何より、母が積んでくださった功德がなかったら、いま私はこの場にいなかったと思います。

ご命日のご講話を聞いて帰ったその日は、とても寒い日でした。帰り道、母のことが脳裏に浮かんできました。「一人息子が悪いことをせず、まじめに学校に通い、問題を起こさずに普通に生きていってほしい。．．．．その一心で母はこの道を歩いたに違いない。当時、どうしてそのことに気付けなかったんだろう」と、私は後悔し、懺悔をしました。しかし、いまとなっては、その思いを母や父に届けることはできません。

教会に通うようになってから、心を動かされたことがもうひとつあります。それは真心から人さまに手を差し伸べるサンガの姿です。教会の奉仕活動で、青年部員たちと一緒に障がい者施設の清掃に行った時のことでした。それ以前に職場の奉仕活動に参加した経験はありましたが、奉仕活動よりも終わったあとの打ち上げへの関心が大きかった私とは違って、純粋な心で一生懸命に掃除をしている青年部員たちの顔は輝いていたのです。「まず人さま」を実践する大切さを教えてくれた青年部員たちに感謝しています。

いまの私は佼成会の信仰でいえば小学生の年齢です。8年前に死んでしまったかもしれない私が、おまけの人生を生きています。冬になるとまだ足がこわばって歩きにくいですが、母のことを思うと足は動いてくれます。「お兄ちゃんが元気でいてくれることで、私は安心できるの」という妹の言葉を思い出すたびに、心が温まってくるのを感じます。「自分はもう一人じゃない」ということを、いま私は知ることができました。これからは、亡くなった両親のために、妹のために、そして私自身のために、自分ができることに最善を尽くして生きてまいります。

ご命日の日には欠かさず李教会長さんのご講話を聴いております。教えていただいたことを実践につなげられるかどうか、まだ自信はありませんが、努力してまいります。28年ぶりに戻って来た教会は、ずいぶん雰囲気が変わりました。明るく優しく温かいサンガの皆さんが、いまは大勢いらっしゃいます。私も皆さんと一緒に学んでいきたいです。

「徐さんのお家の仏さまはお元気ですか」と誰かに聞かれたら、いつでも「はい、明るく微笑んでいらっしゃいます」と返事ができるような、そんな人生をこれから歩んでまいります。

み仏さま、開祖さま、ありがとうございました。会長先生、ありがとうございました。サンガの皆さま、ありがとうございました。



教会で健幸行に取り組む徐さん

まんが 立正佼成会入門

お釈迦さまの生涯と仏教の教え

安らかな心

「諸行無常」「諸法無我」がしっかりわかり、正しく実践できれば、毎日を安らかな心で過ごせる、というのが「涅槃寂静」の教えです。

何か問題がおきても「変化するのはあたりまえ。良い方向に変化させるために努力しよう」という気持ちを持ち、「自分だけでなく、人と協力してみんなが良くなる方法を見つけよう」と考えて生活することが大事です。

そうすれば、ケンカもなくなり、心も落ち着いて、みんなと仲良く生活していけるはず



豆知識

「涅槃」とは、「煩惱の炎が吹き消され、心が安らいだ状態」という意味で、仏教にとって理想の境地である。そこから「生命の火が吹き消された状態」を意味するようになり、「死」「入滅」をさすようにもなった。

※私的使用を除き、無断で複製・転載をしないでください。



『まんが立正佼成会入門』は、佼成ショップにて好評発売中です。

<https://www.koseishop.com/>

苦しみを解決する方法



人間の苦しみの原因と、その解決方法を教えているのが「四諦」で、「苦諦・集諦・滅諦・道諦」の四つからなります。

人生には四苦八苦などの苦悩があり、それらをしっかりと見つめていく(苦諦)。その苦には原因があり、それは欲望であるとする(集諦)。その欲望が完全に抑えられて、苦が生じない理想的な状態がある(滅諦)。苦が生じない状態に至るために八つの正しい道(八正道)がある(道諦)。これが四諦です。

それでは次に、「八正道」について学んでいきましょう。



● 豆知識

諦は「あきらかに見る」の意味で、苦諦は、苦をしっかりと見つめること。教えを理解する順序としては「苦・集・滅・道」だが、実践する時は「苦・集・道・滅」と、道(実行)を先に行ない、滅(涅槃)の状態を目指す。

※私的使用を除き、無断で複製・転載をしないでください。

Director's Column

利他行実践の時は今

国際伝道部長

赤川 恵一

師走の季節を迎えました。毎年この時期に口をついて出てくる有名な諺に「歲月人を待たず」があります。「年月は我々人間の都合とは関係なく、時々刻々と過ぎてゆき、少しも止まるところがない」の意味になりますが、コラムを手にした皆さまは、師走を迎えてどのように一年を振り返っておられることでしょうか？

コロナ禍3年目の今年は、感染終息への出口が見えるようで見えず、2月にはロシアによるウクライナへの軍事侵攻が勃発し、現在も戦火が続いています。各国では物価が上昇し、市民生活に少なからぬ影響を及ぼしています。このような様々な社会の実相を見ると、仏教の智慧と慈悲は解決に向けたヒントをどう示してくれるでしょうか？

その意味では、今月会長先生がお説きくださった「衆生と共に」という六波羅蜜の実践と菩薩の仲間づくりこそ、乱世を生きる私たちに求められているものと感じます。「利他行」の実践には最もやりがいのある時を迎えているのではないかと感じるのは、きっと私だけではないでしょう。

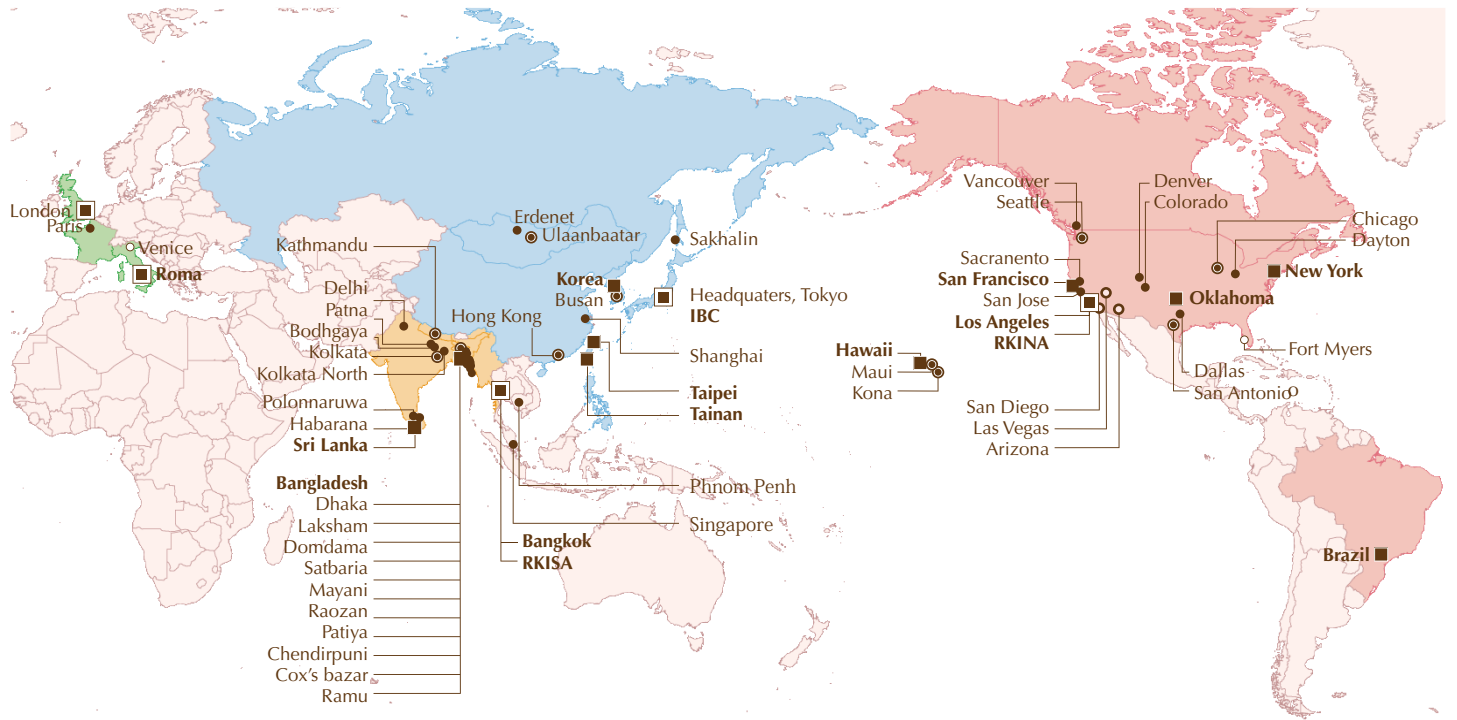


✉ Living the Lotus では、皆様のご意見・ご感想を募集しています。

お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。

E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai: A Global Buddhist Movement



Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii

2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, USA
 TEL: 1-808-455-3212 FAX: 1-808-455-4633
 Email: sangha@rkhawaii.org URL: <https://rkhawaii.org>

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1809 Nani Street, Wailuku, HI 96793, USA
 TEL: 1-808-242-6175 FAX: 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona, HI 96740, USA
 TEL: 1-808-325-0015 FAX: 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, USA
 TEL: 1-323-269-4741 FAX: 1-323-269-4567
 Email: info@rk-la.org URL: <https://www.rk-la.org>

Please contact Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas**

Rissho Kosei-kai of San Francisco

(Address) 1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, USA
 (Mail) POBox 778, Pacifica, CA 94044, USA
 TEL: 1-650-359-6951 Email: lotusbuddhist@gmail.com
 URL: <https://sf-buddhism.org>

Please contact Rissho Kosei-kai of San Francisco

Rissho Kosei-kai of Sacramento

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016, USA
 TEL: 1-212-867-5677 Email: rkny39@gmail.com URL: <https://rk-ny.org>

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056, USA
 TEL: 1-773-842-5654
 Email: rkchicago@rkchi.org URL: <http://rkchi.org>

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

Email: rkftmyersbuddhism@gmail.com URL: <https://rkftmyersbuddhism.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

(Address) 2745 N.W. 40th St., Oklahoma City, OK 73112, USA
 (Mail) POBox 57138, Oklahoma City, OK 73157, USA
 TEL: 1-405-943-5030 FAX: 1-405-943-5303
 Email: dharmacenter@rkok-dharmacenter.org
 URL: <https://rkok-dharmacenter.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Denver

1255 Galapago St. #809, Denver, CO 80204, USA
 TEL: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

617 Kling Drive, Dayton, OH 45419, USA
 URL: <http://www.rkina-dayton.com>

The Buddhist Center Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First St., Suite #1, Los Angeles, CA 90033, USA
 TEL: 1-323-262-4430 FAX: 1-323-269-4567
 Email: info@rkina.org
 URL: <https://www.buddhistcenter-rkina.org>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

(Address) 6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, USA
 (Mail) POBox 692148, San Antonio, TX 78249, USA
 TEL: 1-210-558-4430 FAX: 1-210-696-7745
 Email: dharmasa@rksabuddhistcenter.org
 URL: <https://rksabuddhistcenter.org>

Rissho Kosei-kai of Seattle

28621 Pacific Highway South, Federal Way, WA 98003, USA
 TEL: 1-253-945-0024 Email: rkseattlewashington@gmail.com
 URL: <https://www.buddhistlearningcenter.org>

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Please contact RKINA

Rissho Kosei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP, CEP 04116-060, Brasil
 TEL: 55-11-5549-4446, 55-11-5573-8377
 Email: risho@rkk.org.br URL: <http://rkk.org.br>
 Facebook: <https://www.facebook.com/rishokosseikaidobrasil>
 Instagram: <https://www.instagram.com/rkkbrasil>

在家佛教韓國立正佼成會 Korean Rissho Kosei-kai
〒 04420 大韓民國 SEOUL 特別市龍山區漢南大路 8 路 6-3
6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
TEL: 82-2-796-5571 FAX: 82-2-796-1696

在家佛教韓國立正佼成會釜山支部

Korean Rissho Kosei-kai of Busan
〒 48460 大韓民國釜山廣域市南區水營路 174, 3F
3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
TEL: 82-51-643-5571 FAX: 82-51-643-5572

社團法人在家佛教立正佼成會 Rissho Kosei-kai of Taipei
台灣台北市中正區衡陽路 10 號富群資訊大廈 4 樓
4F, No. 10, Hengyang Road, Jhongheng District, Taipei City 100, Taiwan
TEL: 886-2-2381-1632, 886-2-2381-1633 FAX: 886-2-2331-3433

台南市在家佛教立正佼成會 Rissho Kosei-kai of Tainan
台灣台南市東區崇明 23 街 45 號
No. 45, Chongming 23rd Street, East District, Tainan City 701, Taiwan
TEL: 886-6-289-1478 FAX: 886-6-289-1488
Email: koseikaitainan@gmail.com

Rissho Kosei-kai South Asia Division

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkok, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8141

Rissho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsikhel, Sanepa-1, Lalitpur, Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai Society of Kolkata

89 Srirampur Road (VIP), Garia, Kolkata 700084, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya

Ambedkar Nagar, West Police Line Road, Rampur, Gaya-823001,
Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Patna

Please contact Rissho Kosei-kai Society of Kolkata

Rissho Kosei-kai of Delhi

77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar,
New Delhi 110060, India

Rissho Kosei-kai of Singapore

Please contact Rissho Kosei-kai International

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh

W.C. 73, Toul Sampaov Village, Sangkat Toul Sangke, Khan Reouseykeo,
Phnom Penh, Cambodia

Rissho Kosei-kai International of South Asia (RKISA)

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkok, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8141

Rissho Kosei-kai of Bangkok

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkok, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8216 Email: info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei Dhamma Foundation

No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
TEL: 94-11-2982406 FAX: 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa

Please contact Rissho Kosei Dhamma Foundation

Rissho Kosei-kai Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
TEL: 880-2-41360470

Rissho Kosei-kai Mayani

Mayani Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Damdama

Damdama Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Satbaria

Village: Satbaria Bepari Para, Chandanaih, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Chendhirpuni

Village: Chendhirpuni, P.O.: Adhunogar, P.S.: Lohagara, Chittagong,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai Raozan

Dakkhin Para, Ramzan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Laksham

Village: Dhupchor, Laksham, Comilla, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Dhaka North

Bashundhara R/A, Dhaka, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Cox's Bazar

Ume Burmize Market, Tekpara, Sadar, Cox's Bazar, Bangladesh

Please contact Rissho Kosei-kai Bangladesh

Rissho Kosei-kai Patiya

Rissho Kosei-kai Ramu

Rissho Kosei-kai Aburkhil

Buddiyskiy khram "Lotos"

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk 693005, Russia
TEL: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai of Hong Kong

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road, North Point, Hong Kong, China

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai

Please contact Rissho Kosei-kai International

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar

(Address) 15F Express Tower, Peace avenue, khoro-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia

(Mail) POBox 1364, Ulaanbaatar-15160, Mongolia
TEL: 976-70006960 Email: rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Erdenet

Please contact Rissho Kosei-kai International

Rissho Kosei-kai di Roma

Via Torino, 29, 00184 Roma, Italia
TEL/FAX: 39-06-48913949 Email: roma@rk-euro.org

Please contact Rissho Kosei-kai di Roma

Rissho Kosei-kai di Venezia

Rissho Kosei-kai of Paris

Rissho Kosei-kai of the UK

29 Ashbourne Road, London W5 3ED, UK
TEL: 44-20-8933-3247 Email: info@rkuk.org URL: <https://www.rkuk.org>
Facebook: <https://www.facebook.com/rkuk.official>
Twitter: https://twitter.com/rkuk_official
Instagram: https://www.instagram.com/rkuk_official
YouTube: https://www.youtube.com/c/rkuk_official

Rissho Kosei-kai International Buddhist Congregation (IBC)

〒 166-8537 東京都杉並区和田 2-7-1 普門メディアセンター 3F
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo 166-8537, Japan
TEL: 03-5341-1230 FAX: 03-5341-1224 URL: <https://www.ibt-rk.org>